# 元気のヒ・ケ・ツ
# 足立の商人・創人

【編集・発行】
足立区産業経済部産業振興課
「元気のヒ・ケ・ツ」製作チーム
【問い合わせ先】
足立区産業経済部産業振興課
03－3880－5865（直通）

2019年3月発行

## 東京都花卉園芸組合連合会会長
## ＪＡ東京スマイル足立花卉部会部会長　並木　一重さん

並木さんは、昭和26年生まれの67歳です。長年にわたり、足立区のみならず、関東の花卉農業の第一線で活躍されています。柔らかな笑顔が印象的な並木さんの、元気のヒケツに迫りました。

**－この仕事を始められたきっかけは？－**

結婚してしばらくした後に、妻の実家の生業だった花卉栽培の世界に入りました。私の実家も花卉農家で、私自身も花市場で働いていたから、ある程度の知識はあった。それでも、初めは義理の父にいろんなことを質問して、技術を吸収していきましたね。

花卉栽培を始めた当時は切花用の夏菊を栽培していたけど、10数年前にポット苗の栽培へ切り替えた。その時は、区内でポット苗栽培をやっている農家はうちだけだったんだけど、うちが作り始めてから他の農家もやりだした。区内のポット苗栽培は、うちが先駆者なんですよ（笑）。

ポット苗に切り替えた理由は、農業を少しでも長く続けたいと思ったから。菊などの露地栽培はしゃがみ込んで作業するのが大変。ポット苗なら、花苗用のベンチの上で栽培できるので、足腰の負担が少なくて済む。それに時期をずらして色々な花苗を出荷できるからね。

ハウス栽培といっても、買った人に少しでも長く花を楽しんでもらえるよう、暖房は使っていない。あまり大事に育て過ぎると、ちょっとした環境の変化に花が耐えられなくて、すぐに枯れてしまうからね。

**－今はどんな花苗を栽培していますか－**

葉ボタン、パンジー、ビオラ、キンセンカ、ノースポール、ルドベキア…あとは忘れちゃった（笑）。年間で20種類以上は栽培しているよ。

ＪＡから紹介された新種は、毎年試すようにしている。一昨年栽培した**オステオスペルマム**は、ひとつの株が大きく育つし、たくさん花をつけるから、お得感があっておすすめですよ。昨年はマーガレットを栽培しました。今年はエキナセアを作ろうと思っています。新しい花に挑戦するときは、必ず自分で何年間かは継続して、栽培方法を自分なりに掴むよう心がけている。新種だけじゃなくて、以前から育てている花も、上手に、大切につくり続けていくようにしている。そうすることで、品質をわかった上で「去年のあの苗を」といって注文してくれる人もいるんだ。

花の大半は大田市場（フラワーオークションジャパン）に出荷している。自分の目で情報収集できるのが、市場のいいところだと思いますね。

大きな花ぶり、ぎっしりと詰まった花芽。購入リピーターが多い。

花を見る目は優しさそのもの。良い花苗を選ぶヒケツは、「花を大事にする販売スタッフを見つけて、オススメを聞く事」だそうです。

（左上から時計回りに）土づくりのためのトラクター、ポットへ均等な量の土を入れるポッティングマシン、種類の異なる土と肥料を撹拌するブレンダー。ポット苗をつくる並木さんにとって、どれも欠かせない相棒です。

ご自宅の玄関前を彩る、鮮やかな花壇。研ぎ澄まされたプロの技術を感じます。

取材日はあいにくの雨…。ですが、雫に濡れた幻想的な葉ボタンを見ることができました。

**ー足立区の今後の花卉農業について、どのような想いがありますかー**

どこの農家も、後継者と技術の継承が大きな課題。足立の農業は、今が踏ん張りどころと感じるね。

なにより、各農家の努力が不可欠だと思う。体への負担を減らして少しでも長く農業を続けるための機械化は、私も賛成です。一方で、ただ機械に頼るだけでなく、農家自身の技術を高めて、それを次の世代に伝えていくことも同じように大切。私も、花を日々注意深く観察して、何が必要か常に模索していますよ。

最近は直売所に出荷する農家が多いね。地産地消という観点からすると、とてもいいことだと思う。ただ、「よりいいものをつくる」という気持ちは、常に持っていて欲しい。また、市場で通用する作物を出荷することも目標にして欲しい。そうすることで、市場にあてにされて、農業の幅が広がるはず。

そして、市場もただ安売りするのではなく、モノの価値を考えて値段をつけてほしい。せっかくいいものをつくっても、ずさんに管理されたせいですぐにだめになってしまうのは悲しい。生産者だけでなく、販売者も熱意を持ってほしいと思っています。

**ーお仕事以外での楽しみはありますかー**

ゴルフが好きです。先月も、農家仲間と一緒に沖縄に行って、ゴルフをしてきました。沖縄はこれで18回目（！）になるかな。でも毎回、夜に泡盛をたくさん飲んじゃう（笑）。翌朝早くにコースを回るんだけど、起きるのが辛いんだよね（笑）。

ゴルフをするとき、気心知れた仲間とコースを回るのは、もちろん楽しい。でも、私は知らない人と回るのが一番好きなんです。仲がいい人とだと、変に気を遣っちゃう。知らない人のほうが、純粋にゴルフを楽しむ気持ちになれるんですよ。

**ー元気のヒケツを教えてくださいー**

農業はなかなか休みの日がないから大変だけど、苗を作って、花が咲くまでが楽しいと感じられるから、元気でいられるんだと思います。花を育てるのは、子どもを育てるのと似ている。もっとも、生活のために花をつくっているわけだから、出荷するときに寂しいとか、そういう感情は湧かないけどね（笑）。

自分が育てた花を待っていてくれる人がいるし、自分の手でつくった花が市場でどんな評価を受けるかということも、花を育てるモチベーションになっていますね。

ハウス内での作業は、ポット一つ一つ、手作業で丁寧に。取材での笑顔とはまた違う、真剣な表情です。

並木さんの花は、年3回(3月・6月・12月)区役所で開催される品評展示会で見ることができます。

品評展示会についてのお問い合わせは、産業振興課農業振興係（03－3880－5866）まで！

～編集者より～

笑顔を絶やさず、終始和やかな雰囲気を作ってくださり、お人柄が花に現れているように感じました。花のみならず、農業に対して並々ならぬ情熱を持っていること、それが並木さんの元気のヒケツだと感じました。